

# 大崎町の畜産振興をどうするのか

## 組織の強化と事業及び活動内容を見直したい



中倉 毅議員

大崎町の畜産振興は、組織的には町の協議会と農協の専門部会があるが、和牛部会の組織育成の問題は何か。

### 加入率が低い

町長

現在の和牛部会への加入率は40%であり、その要因は役員をする人がいない。加入のメリットがあるのかどうか。高齢化などが言われている。

### 対策をどうするか

## 活動内容を見直したい

中倉議員

地区リーダーの育成、月一回の定例研修会、巡回指導日の設定、集落単位の改良組合から校区単位の改良組合へ、研修会の手法を改善するなどの他、農家間の連携を深めるため懇親会などを実施することも必要だと思うかどうか。

### 重要課題として検討したい

町長

全体的に重要な対策であると思うので、町、農協、和牛部会で検討したい。

### 増額助成は出来な

中倉議員

組織活動を活発にする

ためには、現在の30万円では不十分であり、60万円程度は必要と思うかどうか。

### 現時点では考えていない

町長

現在、増額は考えていないが、協議会の全体予算の中で見直したい。

### 指導体制はどうするのか

中倉議員

大崎町は畜産課が行革の一環で無くなり、今は畜産係になっている。畜産技術員も1人となり、農協の5人体制に比べ弱体化している。大崎町の農業生産額は140億円で、その65%を畜産が占

めていることから畜産の指導体制の整備は重要である。3人の技術員体制は出来ないか。

### 畜産の指導体制を検討したい

町長

大崎町の畜産振興は農業の基幹産業であり、現在の技術員1人体制では問題なので早急に強化したい。

### 巡回指導員の設置は

中倉議員

畜産農家から巡回指導員の声があるかどうか。

### 必要性はあるが人材確保が難しい

町長

畜産農家からの声も聞いており、その必要性も認めるが、専門性もあり人材確保が困難であるので指導体制の中で検討し



ドーム型牛舎

たい。